

夢をかたらしに...

ゆあい

vol.535

2018.2

<http://www.yuai.jp>

office@yuai.jp

昭和63年1月18日第三種郵便物認可

2月号/平成30年2月1日発行

特集

祝
成人、
祝
還暦



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園



社会福祉法人侑愛会 学校法人ゆうあい学園

研修レポート

□ TTAP(ティータップ)研修 (平成29年6月24日、25日)

□ 自閉症支援のためのワークショップ5DAYS (平成29年8月29日~9月2日)

今年度、侑愛会主催による大きな研修会を二つ開催しています。一つは、昨年6月に開催した「TTAP(ティータップ)研修」。もう一つは、8月末から9月にかけて開催された「自閉症支援のためのワークショップ5DAYS(通称:トレセミ)」です。どちらの研修も、国内で自閉症支援の最前線でご活躍される著名な講師の方たちをお招きしました。今回の巻頭では、それぞれの研修会を受講したお二人のレポートをご報告いたします。

「TTAP研修」を受講して

平成29年6月24日(土)・25日(日)の両日、北斗市総合文化センター「かなでる」で行われたTTAP研修を受講してきました。講師に早稲田大学教育学部教育心理学専攻教授である梅永雄二氏、大阪大学大学院連合小児発達学研究所招聘教員である服巻智子氏の2名を招いた本研修には道内のみならず道外からも参加者が訪れるなど、多くの人が高い関心を示していた研修でした。

そもそも「TTAP」とは何か？少し前に流行した、ペンとリングをくっつけるあのフリーズと見間違えてしまいましたが、TTAPとは「自閉症スペクトラムの移行アセスメントプロフィール」です。これだけ見ると少し堅いイメージを抱いてしまうかもしれませんが、就労などの移行場面をより円滑にするために、本人の状態やつまり可能性のある部分を事前に把握して、支援を計画するための根拠となる情報を集めるためのものです。

TTAPの評価項目は3尺度と6領域から成り立っています。各尺度・領域の詳細は割愛しますが、大

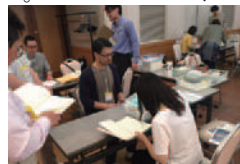


別するとハードスキルとソフトスキルの2点に分かれています。ハードスキルとは仕事そのものを行う能力、ソフトスキルは仕事以外の能力を言い、TTAPではソフトスキルという視点を重要視しています。自閉症の方が就労し、残念ながら離職してしまう原因の多くが対人関係や日常生活能力、休憩時間の過ごし方など仕事以外の能力、いわゆるソフトスキルが原因とのことです。移行前にソフトスキルを適正に評価することが目的とされ、この評価を活用した多くの方が「就職」ではなく「定職」することが出来ているとのことでした。またTTAPは、自閉症の障がい特性に特化しているため、重度の方から軽度の方まで障がいの程度に関わらず活用出来るのも強みといえます。

私は今、おしま学園で進路支援を担当しています。児童施設において成人期への移行は必ず訪れるものであり、今回の研修で学んだことは、おしま学園を利用している子供たちの将来の暮らしに結びつけるためには、必要不可欠なことなのだと思います。そのためには、さらなる学びが必要なのだと改めて考えさせられた2日間でした。



おしま学園
福山 康隆



「自閉症支援のためのワークショップ5DAYS」を受講して

平成29年8月29日(火)から5日間、北斗市総合文化センターかなでるで行われたワークショップ5DAYSを受講させていただきました。この研修は、一日目の公開講演から始まり、5日間、自閉症支援について基礎から学ぶだけでなく、協力者さんと相手が、実際に支援を実践しながら学ぶことが出来るというプログラムで、講習で学んだことを、そのまますぐに実践することが出来ます。講師として、諏訪利明氏、坂井聡氏、中山清司氏、志賀利一氏、梅永雄二氏の5名を招いており、自閉症の支援について、一から実践まで学べるということで、道内はもちろん道外からも多くの方が参加していました。

この研修では、講師と運営スタッフ、5名の自閉症の協力者様と、受講者として5つのグループを作りました。受講者は一日ごとに各グループを移動し、毎日違う協力者様への支



5名の講師の皆さま

援を計画し実践することが出来ます。一日ごとに「自立課題」「生活スキル」「コミュニケーション」「余暇」というテーマに沿って研修を行いました。講義だけでなく、講師の方の実際の支援を間近で見ることが出来たことも、とても勉強になりました。

また、受講者もチームに分かれて実践を行うのですが、意見を交換したり、アイディアを出し合ったりしていると、一つのことで色々な視点があり、チームで支援を行うことの面白さや難しさを感じる場面が多くありました。

私は現在、星が丘寮で生活支援を担当しています。今回学んだ内容はどれもすぐに仕事に生かせるものばかりです。自分の仕事に生かすだけでなく、施設全体に広めて、取り組んでいきたいと思いました。今回の研修を通して、アイディア次第で、まだまだ出来ることはたくさんある、その具体例をたくさん学ぶことが出来たと思います。今後も実践や研修を通して学び、自分自身もアイディアをたくさん出していきけるよう努力していきたいです。



星が丘寮
佐々木 淳実



管理職として9年目になる。いろいろ、やりたいことがある。職員の前で我を忘れて、現実や実力とは程遠い「夢」を熱く語る癖がある。後から、なんだか恥ずかしくなる始末だが、歳を少し重ねると自分のなかに変化を感じることがある▼いろいろな人から教わった一言一言が、今、身に染みる。ある人が言った、「リーダーは、いつも謙虚であるべき」。驕(おご)りや、プライドが冷静な判断を鈍らせる時、いつも呪文のように繰り返し頭に巡る。真に「謙虚な人」こそ、真に「強い人」だと思う▼また最近ある人からは「計画的偶発性理論」という話を聞いた。「個人のキャリアの8割は予想しない偶発的なことによって決定され、その偶然を計画的につくりだしているのは自分だ」。偶然は最大限に活かすとキャリアに大きな影響を及ぼす」という。つまり、その幸運は偶然ではないという▼最近、いろいろやりたいことを始めると、偶然と思える出会いや出来事を体験した。アート活動の充実を目指したい、人材育成について学びたいことや伝えたいこともあった。少し、人づてに動いてみると、たまたま友人の身内に美術関係の人がいて、面材をたくさん提供していた。また、ある研修の企画会議では人材育成の話になり、たまたま自分が担当が回ってきて、憧れの講師と関わることができた▼いろ



小黑 康廣
Oguro Yasuhiro

ワークセンターほくと

いろなタイミングが上手く重なり、思いがけないチャンスと学びをいただいた小さなエピソードだが、誰しも、たまたま上手くいったね...という体験があると思う。しかしそれは偶然ではなく、想いや願いが生み出した必然かもしれない。漠然としていて、リスクもありそうだし、先も見えないけれど、一貫した夢のようなものがあるなら、固定概念を一端捨て、まずは自分の好奇心に身をまかせてみる。そして無駄と感ずることに、も意図的(計画的)に関ると、そこで偶然に出会った人と出来事のなかで、新しい視点や繋がりが生まれ、想定以上の良い結果が導かれるという▼解釈が正しいのか怪しげだが、この「計画的偶発性理論」をもう少し勉強して、自分の仕事や育成に役立てたいと思う。



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園